



令和8年度 添田町施政方針

3月6日に行われた定例会本会議で、寺西町長が表明した本年度の施政方針。昨年度の施政方針で打ち出した「にぎやかな過疎」を一步先へ進める三本の柱を軸に、令和8年度の添田町が始まります。

第一の柱

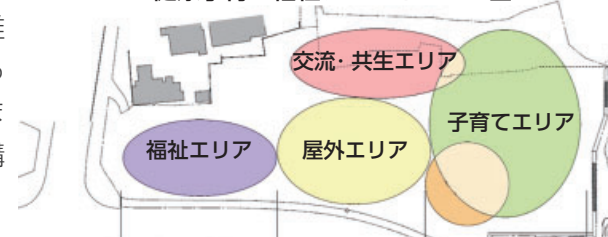
安心をまんやかに据えたまちづくり

命を守り、暮らしを支える基盤づくり、未来への投資として、町民会館跡地に医療、福祉、子育て支援機能を集約・連携させた総合施設「健康子育て福祉ゾーン」の構想を着実に進め、子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らせる基盤を整えます。また、町における地域福祉を推進する指針として、再犯防止推進計画・成年後見制度利用促進基本計画・自殺対策計画を一体的にした「第三期添田町地域福祉計画」を策定し、地域における支え合いや助け合いを中心とした地域福祉の推進につながる施策を検討します。さらに、高齢や障がいにより財産の管理や日常生活等に支障がある人が、本人の「権利擁護」のため適正な制度が利用できる体制を構築することを目的に、権利擁護の支援を担う中核機関を設置し、相談・広報・利用促進・後見人支援・関係機関とのネットワーク体制整備を一体的に進め、支援の充実を図ります。

【健康子育て福祉ゾーンとは】

健康づくり・子育て支援・高齢者福祉の各福祉施策を一体的に捉え、世代を超えて支え合う仕組みとして、町内の公立保育所、子育て支援センター、老人センターなど老朽化が進み更新の時期を迎える施設を町民会館跡地に集約、ユニバーサルデザインを取り入れたバリアフリー対応の複合施設として整備し、子どもから高齢者まで誰もが安心して利用できる新たな福祉の拠点とします。令和8年度、基本構想を公表予定です。

健康子育て福祉ゾーンイメージ図



昨年度の施政方針で掲げた「にぎやかな過疎、みんなでまぢづくり」。過疎という現実を悲観するのではなく、町民一人ひとりが主体となり、支え合い、知恵を出し合うことで、活力ある地域をつくる決意を示したものです。人口減少、少子高齢化は確かに大きな課題です。しかし、過疎を理由に縮小均衡へと向かうのではなく、限られた資源を活かし連携によって価値を生み出す町にしたいと考えています。本年度は、その歩みをさらに一歩進めるため「安心をまんやかに据えたまちづくり」「ワンヘルスの理念を活かした地域経済の循環」の三本の柱を軸に町政運営を行います。

これは、中心部の整備が周辺地域の切り捨てにつながるものではないと明確に申し上げます。安心の拠点を整えることは、町全体の持続可能性を高める基盤整備です。周辺地域の振興と両輪で進めることにより、町全体の底上げを図ります。小さな町だからこそ、連携は最大の力です。行政だけでなく、町民、事業者、関係機関、そして議会の皆様と共に、対話を重ねながら、実行の一年にしてまいります。過疎は課題の一つです。しかし同時に、挑戦の舞台でもあります。私は本年度を「にぎやかな過疎の、その先へ進む一年」と位置づけ、命を守り暮らしを育て、未来を拓く町政運営に全力で取り組んでまいります。

第二の柱

ワンヘルスの理念を活かした地域連携

人や動物の健康、自然環境の健全性は互いに深く結びついています。本町が誇る豊かな自然や農林業、地域資源を活かしながら、環境と調和した持続可能な地域づくりを進め、併せて観光・農業・教育・防災など、分野を横断した連携を行い、添田町ならではの価値を高めて行きます。

交流機能をもつ道の駅歓遊舎ひこさん、廃線跡を歩き、自然体験ができるフォレストアドベンチャー・添田、健康増進を図るクアハウスなどの既存資源を点ではなく線で結び、相互に回遊できる仕組みを構築し、連携させることでワンヘルスの理念のもと、人の健康と地域環境、観光振興が循環するまちづくりを推進します。



第三の柱

挑戦を支える地域経済の循環

安心があるからこそ挑戦できる。挑戦があるからこそにぎわいが生まれる。この好循環を創り出す一年とするため、地場産業の振興、観光資源の磨き上げ、交流人口・関係人口の拡大を図り、地域内で経済が循環する仕組みを強化します。

BRT開通3年目を迎える本年度、観光誘客と利用促進策を強化し、交通を軸とした交流拡大を図ります。また、国の物価高騰対策を活用し、昨年度に引き続き学校給食費の全額助成や、プレミアム商品券の発行による町内消費喚起を行います。さらに、18歳までの子どもと65歳以上の高齢者のインフルエンザ予防接種費用の全額補助、町内社会福祉施設への光熱水費上昇分支援、配食サービス高騰分支援、敬老事業記念品の上乗せ支援を実施し、生活と地域経済を支えます。これらを着実に進めつつ、持続可能な財政運営に努めます。



添田町 主要事業

令和8年度の主な事業を紹介します。

添田駅周辺道路整備事業

▶ 500万円（土木費）

峰地地区から添田駅へ直接アクセスできる道路を整備するため、駅前周辺の将来像を踏まえた上で、今年度はルートや幅員構成などの検討に加え、周辺環境や現地踏査などの調査を行います



プレミアム付商品券発行事業

▶ 1,297万円（商工費）

物価高騰の影響を受けている町民や、その影響により落ち込む地域経済の回復を図り、町内消費を喚起するため、町商工会が発行するプレミアム率30%の地域商品券に対し、一部助成を行います



添田町道路台帳電子化業務DX推進事業

▶ 7,718万円（総務費等）

紙ベースで管理している町道路台帳を電子化し、これらの情報をスマートフォンやタブレット、パソコンなどから閲覧できる公開型GISで構築することにより、町民や事業者の利便性向上を図ります

